

# 美学校

2025 年度「超・日本画ゼミ」14 期生一同

## 美学校 超・日本画ゼミ 14 期修了展

### 「喂喂、この後どこ行く？」

花鳥画など一般にイメージされる「日本画=Japanese Painting」は明治期に作られた名称で、日本の伝統的な素材や技法で描いた絵画様式を指します。言葉としての「日本画」が誕生してから 150 年以上を経た今もその定義は曖昧であり、だからこそ新たな流れを起こす甲斐があるとも言えます。

わたしたちは美学校という空間に助けられながら、日本画的な表現技法を貪り、噛み砕き、内なる動機に突き動かされて個々の表現への変換を試みてきました。互いに「喂喂(もしもし)、この後どこ行く？」と問いながら。



本修了展は 2025 年度「超・日本画ゼミ」に所属した 14 期生による「この後も問い続け、描き、生きていく」という宣言です。

知と情の魔窟と化した「美学校 本校」で、いち表現者としての「この後」の予感に触れていただければ幸いです。

**開催日時：2026 年 4 月 17 日（金）～4 月 21 日（火）**

平日 13:00～20:00 土/日 11:00～18:00 最終日:13:00～17:00

※4 月 19 日(日)13:00～トークイベントあり。

**会場：美学校 本校**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F

## 14 期修了展 展示作家紹介（五十音順）：



### ■ 井手 ゆきえ

偶然が意図を消し去る刹那、思いもしなかった存在が鮮やかに立ち上がる。日本画の“たらし込み”という技法で、重力と水という制御しえない力と戯れ、意味も無意味も重なり合う間に遊ぶのだ。



### ■ 呉 慶寧（ご けいねい）

これまで、いま、これから。  
一つの断面として言葉で固定せずにおく。

今回の作品は、この紹介文の余白。



### ■ 惟素 磔（これもと れき）

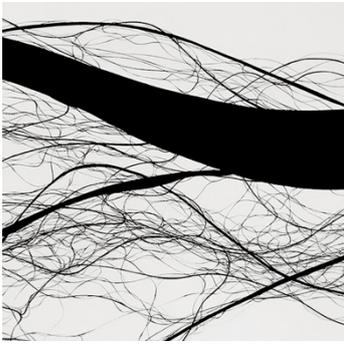
骨や幽霊、煙といった「生」の輪郭を留めるモチーフを通じ、肉体の不在から生命の気配を記述する。具象と抽象の間でゆらぐ画面は、言葉にできない思考を扱う「祈りのレンダリング」である。

不在を見つめることで、逆説的にあらゆる存在を肯定し、境界を繋ぐ試み。



### ■ 中村 雅奈 (なかむら かな)

画家・イラストレーター。1995年東京生まれ。女子美術大学  
ヴィジュアルデザイン専攻修了。都心や島で見た植物とそこ  
に潜む白い妖精を描き、自然の一部である自身と世界の関  
係性を探る。第20回TIS公募TIS大賞。2026ボローニャ国  
際絵本原画展ファイナリスト。



### ■ nag miyamoto

線を描く人。  
みえないもの・ことを、線をとおしてあらわしたい。  
人間は、六感をとおして体内にとりこみ、  
復元ではなく再生成する。  
それは、だれもおこなっている営み。  
その断面をしるす。



### ■ 苗 青青 (みょう せいせい)

ずっと、言葉になる前の記憶の層を描こうと試みています。  
にじみ、重なり、溶け合いを通して、柔らかく優しい内面を記  
録していきます。いつか匂い、色彩、音によって構築された  
世界が立ち上がることを願っています。



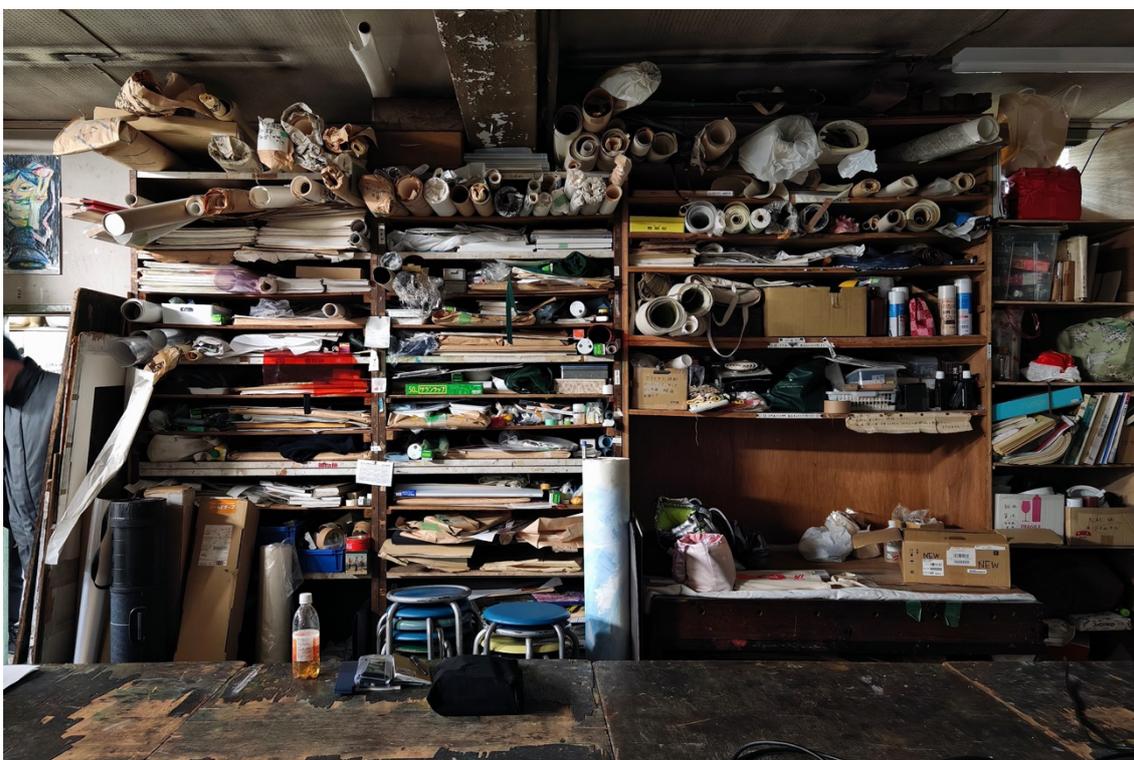
### ■ 宮崎 武彦 (みやざき たけひこ)

日常を生きていると、太古からの卵子と精子の交配によって  
今の自分が在ることは実感しにくい。身体の動きが外部化さ  
れ定着することで、洞窟壁画でも、美術館のマスターピース  
でも、時間を超えて  
そこにいたヒトの存在の息吹が感じられる。人生の3/4が過  
ぎたあたりで、そのような足跡を残す旅がしたいと思った。

## 超・日本画ゼミについて：

東京神保町にある1969年創立の美術・音楽・メディア表現の私塾「美学校」。その日本画クラスとして2012年に間島秀徳を講師に迎えて開講したのが「超・日本画ゼミ」です。後に小金沢智、香具山雨が講師陣に加わりました。作家、キュレーターという異なる視点を持つ講師陣と様々な背景をもつ学生とが共にゼミ形式で学ぶ実践と探求の講座です。

(美学校本校)



### ■ 最新情報／お問い合わせ

Instagram: @CHONIHONGA\_2026

広報担当: i.d.e@now.mfnet.ne.jp



@CHONIHONGA\_2026